

平成24年10月17日



研究だより

第33号

自治医科大学附属さいたま医療センター

「Research Mindを備えた臨床医を目指そう」

一般・消化器外科 教授 力山 敏樹



私は1990年に東北大学を卒業し、岩手県総合水沢病院での2年間の外科初期研修を経て、1992年に東北大学第1外科（現肝胆膵・胃腸外科）に大学院研究生（原則4年間）として入局しました。一般的に大学医局に所属する主な目的は二つで、一つは学位（医学博士）を取得すること、もう一つは将来のキャリアパス（＝修練先や就職口、ポスト）を保証してもらうことです。最近はこの考え方も変わりつつあるようですが、私が初期研修を終えた頃は、どの大学・診療科・医局を選択するかは別として、大学医局に入局し学位取得を目指すことはごく当たり前の進路でした。

入局後は肝胆道グループに配属され、義務である約2年半の病棟勤務を行いながら実験の基本手技を教わり、研究テーマを与えられそれに関する論文を読み漁って知識を深めました。当初与えられたテーマは「ラット細菌性腹膜炎モデルにおける肝障害発生機序の解明」で、先輩が代々行ってきた研究の継承でしたが、既に多くの研究成果が発表されている領域であり、実際の臨床を考えるとあまりインパクトのない時代遅れの研究というのが正直な感想でした。肝胆膵外科医を志していた私は、臨床的に当時直死率の高かった肝膵同時切除術に興味を持っており、膵切除あるいは高侵襲に伴う肝再生遅延が高い肝不全発症率・直死率の原因と考え、この機序の解明をテーマとしたと、当時のチーフに直訴して許可を得ました。とは言え、ラット・マウスの肝切除実験、膵切除実験は多くの報告があるものの、ラットを用いた肝膵同時切除実験の報告は皆無で、まずこのモデル作成から始めることになりました。ラットの肝切除、膵切除自体はさほど難しい手技ではありませんが、これらを組み合わ

せた70%肝切除70%膵切除を行うと、当初はほとんどのラットが耐術しませんでした。麻酔管理の向上、膵液漏や出血を起こさない丁寧な結紮手技等により、安定した70%肝膵同時切除モデルを完成させるまでに多数のラットと半年以上の月日を要しました。研究内容はここでは省略致しますが、最終的に、300匹以上のラット肝膵切除手術と、採取した初代培養肝細胞、Kupffer細胞を用いた実験を重ね、1997年に「肝膵同時切除後の肝再生抑制機構に関する実験的検討」で学位を取得すると共に、結果を「Kupffer cell-mediated inhibition of liver regeneration after combined hepatectomy and pancreatectomy. J Gastrointest Surg. 1999」「肝膵同時切除術後の肝非実質細胞を介した肝再生抑制機構 ラット肝・膵同時切除モデルを用いた実験的検討. 日本外科学会雑誌. 2001」として報告しました。

学位の仕事が一段落ついた1996年から3年間、秋田県仙北組合総合病院外科に勤務しました。研究生活から完全に離れ、第一線の野戦病院で大好きな臨床にどっぷり漬かっていましたが、1998年春の外科学会会場で、米国留学中の先輩と会い、後任として留学を勧められました。家族には反対され大分迷いましたが、一度は海外で暮らしたいという思いと、身体を壊すほどの忙しい臨床生活に少し疲れていたこともあり、1999年3月に米国メリーランド州にある国立衛生研究所（NIH）内の国立癌研究所（NCI）にvisiting fellowとして留学しました。

留学先の研究室は、当時クローニングされて間もないp53やp27、p14、p16、BRCA 1などの癌抑制遺伝子あるいはDNA修復遺伝子をアデノウイルスベク

ターに組み込み癌細胞に導入する遺伝子治療をメインテーマにしているところで、臨床実験まで行い始めていました。非常に興味を持って渡米し、英語もおぼつかないうちから、様々な癌抑制遺伝子をベクターに組み込んだり、ウイルスを増殖させたり、発現をWestern blotで確認する、といった実験を始めましたが、1ヶ月も経たないうちにボスであるDr. Kenneth H Cowanから、「自分はネブラスカ大癌センター所長に栄転することになり、この研究室は後半年で閉鎖となる。ネブラスカに付いてきても良いし、NIHで別の研究室を探しても構わない」と言われました。アメリカではありふれた事のように、まさに青天の霹靂、挫折感と不遇感を味わうことになりました。帰国するかも含め再び相当迷いましたが、子供の学校を始めようやく生活のセットアップができたところでもあり、後者を選択し、予想外の就職活動が始まりました。ホームページや知り合いの伝手を頼って約10の研究室にアプライし、3カ所の面接に漕ぎ着け、最終的にEpidermal Growth Factor Receptor (EGFR) 研究で著明なDr. Ira Pastan率いるLaboratory of Molecular Biologyに拾ってもらいました。

直属のボスはDr. Alfred C Johnsonという黒人で、主にEGFRのプロモーター領域に結合する転写因子を研究していました。私に与えられたテーマは、同研究室で世界初の転写抑制因子としてクローニングされCellに報告されたGC binding factor 2 (GCF2) の機能解析でした。2年間を費やし、GCF2が種々の臓器や癌細胞で発現することや、GCF2の様々なデリーションミュータントを作成した上でのDNA結合実験や転写活性実験によりGCF2タンパクのDNA結合ドメイン等を明らかにし「GCF2: expression and molecular analysis of repression. Biochim Biophys Acta. 2003」

として報告しました。

足かけ2年半のNIH留学は、日常生活を含めありとあらゆる事が新鮮で私の人生に様々な刺激を与えてくれました。もちろん研究生活は、Cell、Nature、Scienceと言った一流誌に掲載される研究者が身近にごろごろいて相談に乗ってくれること、ノーベル賞受賞者クラスの講演が頻繁に聴けること、等々、他の研究施設では経験できない、非常に恵まれた素晴らしい環境でした。反面、これはあくまで私見ですが、世界中から人生をかけたPhDが集まって研究している中で、2年や3年の腰掛けで研究しているMDは意気込みからして敵うわけがなく、基礎研究はPhDにまかせ、やはりMDはMDにしかできない臨床に直結する研究をすべき、との思いを強くしました。

その後の臨床研究については紙面の都合上割愛しますが、臨床医の自分にとって、これまでの基礎研究生活は今の自分に役立っているのか、と振り返ったとき、それは決して無駄ではなく、Reserch Mind (研究者としての目や心の意、造語) を身につけることが出来た貴重な経験であったと思っています。

臨床医としての道を踏み出した若い先生達は、今後学位取得や研究をすべきか迷うこともあるでしょう。あるいは現在学位を目指して基礎研究に打ち込む先生達は、無駄な時間を過ごしているのではと悩むこともあるでしょう。しかし、長い人生の一時期、臨床を離れ研究に没頭する事は大変貴重かつ必要な経験だと考えます。人生に無駄な時間はありません。医師として、人間として一回り大きくなるためにも、回り道を恐れず、新しい環境に飛び込んで大いに研究に打ち込みましょう。そしてその経験を生かし、常にReserch Mindを備えた臨床医を目指して欲しいと思います。

研究の成果

総合医学 1

■ 総合診療科

平成23年8月から平成24年9月までの総合診療科の業績です。

論文

- 1) 石井 彰, 菅原 斉, 渡辺珠美, 松本充也, 松林 洋志, 出光俊郎, 兵頭隆史, 山田茂樹, 川上正舒: 臓器別専門外来でのReview of systems聴取の重要性が示唆されたAmelanotic melanomaの1剖

検例. 自治医科大学紀要34: 129-134, 2011

- 2) Aoki A, Muneyuki T, Yoshida M, Munakata H, Ishikawa S, Sugawara H, Kawakami M, Kakei M: Circulating osteocalcin is increased in early-stage diabetes. Diabetes Res Clin Pract 92 (2): 181-186, 2011
- 3) Yabe H, Ishii A, Niikawa N, Mastubayashi H, Kawakami M, Kakei M, Sugawara H: A case of an elderly patient who developed spontaneous spinal epidural hematoma during warfarin therapy. Internal Medicine 51 (11): 1429-1432, 2012

- 4) 川畑奈緒, 石井 彰, 茂木さつき, 手塚洋子, 長谷部忠史, 本多晴美, 三ツ橋美幸, 笹岡康子, 菅原 斉, 早田邦康: 全身性強皮症患者の栄養管理に対してチームでのアプローチが奏功した一例. 日本病態栄養学会雑誌 15 (2): 185-191, 2012
- 5) 百村伸一, 菅原 斉: 浮腫と利尿薬. 月刊循環器 CIRCULATION 2: 68-73, 2012
- 6) Muneyuki T, Nakajima K, Aoki A, Yoshida M, Fuchigami H, Munakata H, Ishikawa S, Sugawara H, Kawakami M, Momomura S, Kakei M: Latent associations of low serum amylase with decreased plasma insulin levels and insulin resistance in asymptomatic middle-aged adults. Cardiovascular Diabetology 2012; 11: 80 (doi: 10.1186/1475-2840-11-80, Published: 29 June 2012)
- 7) Damdindorj B, Dezaki K, Kurashina T, Sone H, Rita R, Kakei M, Yada T: Exogenous and endogenous ghrelin counteracts GLP-1 action to stimulate cAMP signaling and insulin secretion in islet β -cells. FEBS Lett. 2012 Jul 30; 586 (16): 2555-62.
- 8) Nakajima K, Oshida H, Muneyuki T, Kakei M: Pancreatic lipase: an evidence-based review of its use for treating pancreatic exocrine insufficiency. Core Evid. 2012; 7: 77-91. Epub 2012 Jul 19.
- 9) 加計正文: 2型糖尿病合併高血圧患者を対象としたアバプロ[®]錠(イルベサルタン)の臨床効果: 降圧非依存性イルベサルタンの尿中アルブミン排泄抑制作用 血圧 19 472-476, 2012.
- 4) 群(APS)を伴う腎機能障害に対してステロイド・血漿交換療法が奏功した一例. (日本腎臓学会誌 (0385-2385) 2011.08; 53 (6); 941)
- 4) 岩本健一, 田巻佐和子, 渡辺珠美, 木村真智子, 鈴木 潤, 矢部寛樹, 石井 彰, 菅原 斉, 加計正文, 川上正舒: 後頸部激痛で発症, 頸部前屈可・回旋不可の身体所見が診断の契機となった Crowned dens syndrome (CDS) の1例. 第585回日本内科学会関東地方会, 東京, 2012年2月11日(日本内科学会関東地方会585回演題要旨: 73, 2012)
- 5) 田巻佐和子, 岩本健一, 渡辺珠美, 木村真智子, 矢部寛樹, 鈴木 潤, 石井 彰, 菅原 斉, 加計正文, 川上正舒: カフェインの過剰摂取による難治性嘔吐が原因と考えられた特発性縦隔気腫の1例. 第585回日本内科学会関東地方会, 東京, 2012年2月11日(日本内科学会関東地方会585回演題要旨: 97, 2012)
- 6) 大谷敏嘉, 菅原 斉, 百村伸一, 内潟安子, 大谷洋一: 50歳頃から重症低血糖および体重増加をきたした45年以上の罹患歴を有する1型糖尿病患者の予後. 第46回大宮医学会総会, さいたま, 2012年3月3日
- 7) 松沢迪子, 菅原 斉, 松林洋志, 渡辺珠美, 石井 彰, 加計正文, 出光俊郎, 森田 守: 皮疹が口腔の単発小びらんからはじまり, 殿部と大腿部の多形浸出性紅斑、足底の小紅斑へと異時性に順次拡大した手足口病の成人例. 第109回日本内科学会総会サテライトシンポジウム, 京都, 2012年4月14日(第109回日本内科学会総会サテライトシンポジウムプログラム抄録集: 158, 2012)
- 8) 渡辺珠美, 菅原 斉, 松林洋志, 石井 彰, 加計正文, 田中裕一, 野首光弘: 消化器症状が主だったため、確定診断までに8か月を要した下垂体前葉機能低下症を合併した頭蓋咽頭腫の1例. 第109回日本内科学会総会サテライトシンポジウム, 京都, 2012年4月14日(第109回日本内科学会総会サテライトシンポジウムプログラム抄録集: 159, 2012)
- 9) 新川尚子, 菅原 斉, 石井 彰, 松林洋志, 渡辺珠美, 加計正文, 川上正舒, 山田茂樹: 剖検で確定診断に至った血管内大細胞型B細胞性リンパ腫(IVL)による血球貪食症候群の77歳男性例. 第109回日本内科学会総会サテライトシンポジウム, 京都, 2012年4月14日(第109回日本内科学会総会サテライトシンポジウムプログラム抄録集: 163, 2012)
- 10) 眞山英徳, 菅原 斉, 松林洋志, 渡辺珠美, 石井

学会発表

- 1) 崎山快夫, 大塚美恵子, 菅原 斉, 植木 彰: 脳梗塞入院患者のコレステロール値に関する6年間の後方視的検討. 第53回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011年6月16日(日本老年医学会雑誌 48 (suppl.): 73, 2011)
- 2) 新川尚子, 石井 彰, 松林洋志, 渡辺珠美, 矢部寛樹, 菅原 斉, 加計正文, 川上正舒, 小林 裕, 土橋 洋: 漏出性胸水にも拘わらず胸水中PSA高値のparamalignant effusionを呈した前立腺癌の1例. 第579回日本内科学会関東地方会, 東京, 2011年9月11日(日本内科学会関東地方会579回演題要旨: 35, 2011)
- 3) 伊藤聖学, 石井 彰, 鶴岡昭久, 平井啓之, 植田裕一郎, 森 穂波, 名畑あおい, 吉田 泉, 山田茂樹, 菅原 斉, 田部井薫: 抗リン脂質抗体症候

- 彰, 加計正文, 田部井薫, 寺井千尋, 出水俊郎, 野首光弘: 進行性の手指有痛性乾性壊疽で発症したCg血症性血管炎に対し、ステロイドパルス、CPAパルス、血漿交換、二重濾過血漿交換の集学的治療で小康を得た高齢者の1例. 第109回日本内科学会総会サテライトシンポジウム, 京都, 2012年4月15日(第109回日本内科学会総会サテライトシンポジウムプログラム抄録集: 245, 2012)
- 11) 鈴木 潤, 菅原 斉, 真木 充, 眞山英徳, 松林洋志, 渡辺珠美, 石井 彰, W. Y. Fujimoto, 加計正文, 山田茂樹: 高カルシウム (Ca) 血症による意識障害を契機に発見されたメソトレキサート関連リンパ増殖性疾患 (MTX-LPD) の関節リウマチ (RA) 症例. 第109回日本内科学会総会サテライトシンポジウム, 京都, 2012年4月15日(第109回日本内科学会総会サテライトシンポジウムプログラム抄録集: 246, 2012)
- 12) 明石直之, 菅原 斉, 眞山英徳, 野中 彩, 渡辺珠美, 石井 彰, 加計正文: 類天疱瘡治療に用いたアザチオプリン (AZA) による薬剤性汎血球減少から回復した高齢者の1例. 第587回日本内科学会関東地方会, 東京, 2012年5月12日(日本内科学会関東地方会587回演題要旨: 14, 2012)
- 13) 木村真智子, 矢部寛樹, 坂根英夫, 石井 彰, 渡辺珠美, 岩本健一, 崎山快夫, 大塚美恵子, 菅原 斉: 頸部から上肢の疼痛で発症し, 他病院の整形外科では診断に苦慮した神経痛性筋萎縮症の1例. 第587回日本内科学会関東地方会, 東京, 2012年5月12日(日本内科学会関東地方会587回演題要旨: 81, 2012)
- 14) 宗雪年孝, 菅原 斉, 石田岳史, 加計正文, 中島啓, 百村伸一: 低体重は蛋白尿の危険因子 横断・縦断 (8年間) 研究. 日本生活習慣病学会総会, 自治医科大学シンポジウム, 自治医科大学, 2012年8月31日 (JMU Best Poster Award)
- 15) 宗雪年孝, 石田岳史, 諏訪 要, 瀬田節子, 菅原 斉, 加計正文, 百村伸一, 中島 啓: 低体重と蛋白尿の関連性 横断研究. 第53回日本人間ドック学会学術大会, 東京, 2012年9月1日(第53回日本人間ドック学会学術大会抄録集P1-024: 2012)
- 16) 松林洋志, 菅原 斉, 石井 彰, 渡辺珠美, 松沢迪子, 眞山英徳: 原因不明の横紋筋融解症によりII型呼吸不全を来した一例. 第3回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会. 福岡, 2012年9月1日(第3回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会プログラム抄録集: P-069, 2012)
- 17) 渡辺珠美, 小林瑠美子, 宮澤恵果, 眞山英徳, 津久井卓伯, 藤原隆行, 石井 彰, 菅原 斉, 加計正文: 検査前絶食が契機となった低血糖と高度肝障害が遷延した摂食障害と考えられるBMI11.5の高齢者の1例. 第3回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会. 福岡, 2012年9月1日(第3回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会プログラム抄録集: P-078, 2012)
- 18) 石井 彰, 菅原 斉, 眞山英徳, 渡辺珠美, 中村潤: 腸管吸収不良症候群患者へのポート留置による在宅中心静脈栄養管理の一例. 第3回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会. 福岡, 2012年9月2日(第3回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会プログラム抄録集: O-094, 2012)
- 19) 平松綾子, 眞山英徳, 坪井基浩, 小林瑠美子, 津久井卓伯, 石井 彰, 渡辺珠美, 菅原 斉, 崎山快夫, 大塚美恵子: 一過性の上方水平半盲と中枢性色覚異常および街並失認をきたした両側後頭葉と右小脳虫部の脳塞栓症の1例. 第590回日本内科学会関東地方会, 東京, 2012年9月8日(日本内科学会関東地方会590回演題要旨: 79, 2012)
- 20) 中村 潤, 石井 彰, 塚原理恵子, 出光俊郎, 眞山英徳, 渡辺珠美, 菅原 斉, 野首光弘: 発熱、筋痛、下肢の紅斑・硬結を主症状としたミノサイクリン誘発性結節性多発動脈炎の1例. 第590回日本内科学会関東地方会, 東京, 2012年9月8日(日本内科学会関東地方会590回演題要旨: 97, 2012)

その他

- 1) 菅原 斉: 「ふりかけ実験だね」-私のターニングポイント: 省察的内科医としての総合医へ-. 研究だより, 第29号: 1-2, 2011
- 2) 菅原 斉: 大学説明 教育内容と特色について. 平成23年度自治医科大学(医学部)説明会, さいたま, 2011年10月18日
- 3) 菅原 斉: ミニ診療室-花粉症と口腔アレルギー症候群. 月刊 災害補償 531: 47-48, 2012
- 4) 菅原 斉(編): 総合医の歩み 第2巻. 自治医科大学附属さいたま医療センター, 2012年1月
- 5) 渡辺恭孝, 小山信一郎, 工藤史明, 三輪千尋, 渡辺珠美, 石井 彰, 菅原 斉, 大河内知久, 田中修, 蛭田昌宏, 土橋 洋, 山田茂樹: CPC 頭痛, 精神症状で発症し, 診断に苦慮した肺腺癌原発癌性髄膜炎の1剖検例. THE LUNG perspective 20: 106-111, 2012
- 6) 菅原 斉: 病気を未然に防ぎましょう 「健診・検診を誤解していませんか?」. 自治医科大学附

属平成23年度第2回さいたま医療センター公開講座, さいたま, 2011年11月19日

- 7) 百村伸一, 菅原 斉, 石光俊彦, 安村良男: 座談会 浮腫をみたら. Fluid Management Renaissance 2: 217-225, 2012
- 8) 菅原 斉: 書評: 皮膚病も診療しているすべての内科医の座右に置きたい皮膚疾患アトラス. レジデントノート14: 1168, 2012

■ 消化器科

①学会、講演会、研究会への出席、発表の日程、概要 (2012年6月～8月)

- 1) 鷺原規喜: 早期消化管癌に対するESDのコツとポイント「食道ESD」. 第7回埼玉県東部治療内視鏡検討会 2012. 6. 26さいたま市
- 2) 宮谷博幸: 臨床に役立つEUSの基本的知識. 第1回埼玉EUS研究会 2012.6.21さいたま市
- 3) 宮谷博幸: EUS-FNAについて. 第2回さいたま内視鏡テクニカルカンファレンス 2012. 7. 20 さいたま市
- 4) 宮谷博幸: 平成23年度胃癌症例について(症例解説). 平成24年度第1回さいたま市胃がんX線検診症例検討会. 2012. 7. 26 さいたま市
- 5) 岩城孝明: 良悪の鑑別が困難であった脾腫瘍の1例. 第28回埼玉胆膵懇話会 2012. 7. 27 さいたま市

②原著その他論文 (2012年6月～2012年8月)

- 1) Tokai K, Miyatani H, Yoshida Y, Yamada S: Multiple esophageal variceal ruptures with massive ascites due to myelofibrosis-induced portal hypertension. World J Gastroenterol. 2012; 18: 3770-4.
- 2) 新藤雄司, 宮谷博幸, 上原健志, 池谷敬, 山中健一, 池田正俊, 東海浩一, 牛丸信也, 松本吏弘, 浅野岳晴, 高松徹, 福西昌徳, 岩城孝明, 鷺原規喜, 浅部伸一, 吉田行雄: 肝細胞癌局所治療後の胆汁瘻に合併した大網脂肪織炎および脾液瘻に内視鏡的ドレナージが有効であった1例. 日本消化器病学会誌 2012; 109: 1243-1249.

■ 呼吸器科

平成24年7月～24年12月

学会参加

- 1) 日本呼吸ケアリハビリテーション学会 2012. 11.

23-24 福井

- 2) 日本科学両学会東日本支部会 2012. 10. 10-12 東京
- 3) 日本肺癌学会 2012. 11. 8-9 岡山
- 4) 日本アレルギー学会総会 2012. 11. 30-12. 2 大阪

原著

- 1) Yasutaka Watanabe, Shinichiro Koyama, Chihiro Miwa, Sinya Okuda, Yoshihiro Kanai, Kenji Tetsuka, Mitsuhiro Nokubi, Yoh Dobashi, Yoshinori Kawabata, Yoshinobu Kanda, Shunsuke Endo. Pulmonary mucosa-associated lymphoid tissue (MALT) lymphoma in sjogren syndrome showing only the LIP pattern radiologically. Inter Med 51: 491-495, 2012

学会・地方会・研究会発表

- 1) 三輪千尋, 岩井悠希, 野村基子, 工藤史明, 白石守, 渡辺恭孝, 小山信一郎. 慢性咳嗽の診断における気道反応性と呼気中一酸化窒素 (FeNO) との関連. 第52回日本呼吸器学会学術講演会 2012. 04. 20-22, 神戸 p267
- 2) 工藤史明, 渡辺恭孝, 岩井悠希, 野村基子, 白石守, 三輪千尋, 小山信一郎. 血液疾患に合併した肺病変の臨床的検討と気管支鏡検査による検査の意義. 第52回日本呼吸器学会学術講演会 2012. 04. 20-22, 神戸 p287
- 3) 渡辺恭孝, 工藤史明, 白石守, 岩井悠希, 野村基子, 三輪千尋, 小山信一郎. 抗CCP抗体陽性慢性関節リウマチ症例の肺病変と抗CCP抗体の関連性の検討. 第52回日本呼吸器学会学術講演会 2012. 04. 20-22, 神戸 p333
- 4) 岩井悠希, 渡辺恭孝, 野村基子, 白石守, 中野智之, 三輪千尋, 手塚憲志, 野首光弘, 土橋洋, 川上務, 遠藤俊輔, 小山信一郎. 心臓内肉腫を合併した二相型悪性胸膜中皮腫の1剖検例. 第199回日本呼吸器学会関東地方会. 2012. 05. 26 東京
- 5) 吉田克之, 渡辺恭孝, 白石守, 岩井悠希, 野村基子, 三輪千尋, 矢部寛樹, 黒岩卓, 寺井千尋, 小山信一郎. MPA長期経過中に多発性筋炎によると思われる間質性肺炎を合併した1例. 第200回日本呼吸器学会関東地方会. 2012. 07. 14 東京

研究会、講演会等

- 1) 小山信一郎. 平成23年度肺がん検診症例検討会 2012. 03. 07 さいたま 講師
- 2) 小山信一郎. 平成23年度日本大学医学部同窓会三浦半島支部総会学術講演会「COPDについて」

2012. 03. 31 鎌倉 講師
- 3) 小山信一郎. 肺循環の基礎と臨床. 東埼玉肺高血圧症講演会 2012. 06. 26 越谷 演者
- 4) 小山信一郎. 第17回3学会合同呼吸療法士認定講習会 2012. 08. 26 東京 講師
- 5) 小山信一郎. さいたま市薬剤師会研修会 2012. 09. 11 さいたま 講師
- 6) 小山信一郎. 第2回呼吸治療専門臨床工学技士資格取得指定講習会 東京 2012. 09. 29 講師

■ 神経内科

【総説】

- 1) 齊藤祐子, 崎山快夫, 足立: 特集・自律神経とその病気 Pure autonomic failure.. BRAIN MEDICAL 2012. Vol.24 No.2 pp. 143-152

【学会発表】

- 1) 堤多可弘, 崎山快夫, 大塚美恵子, 手塚憲志, 植木彰. 胸腺カルチノイドに伴った抗NMDA受容体脳炎の71歳男性例. 第199回日本神経学会関東地方会. 2011. 11. 25, 東京
- 2) 木村真智子, 矢部寛樹, 坂根英夫, 石井彰, 渡辺珠美, 岩本健一, 崎山快夫, 大塚美恵子, 菅原斉: 頸部から上肢の疼痛で発症し, 他病院の整形外科では診断に苦慮した神経痛性筋萎縮症の1例. 第587回日本内科学会関東地方会, PG: 42, 2012, 5, 東京
- 3) 大塚美恵子, 崎山快夫, 植木彰: 脳脊髄液減少症患者における頭部MRI硬膜造影所見の実態. 第53回日本神経学会学術集会, 2012. 5. 23-25, 東京
- 4) 崎山快夫, 大塚美恵子, 植木彰: Micro bleedsおよび血清脂肪酸組成からみた認知症における血管因子の検討. 第53回日本神経学会学術集会, 2012. 5. 23-25, 東京
- 5) 崎山快夫, 大塚美恵子, 植木彰: 当センターにおける後期高齢者に発症した神経免疫疾患の特徴. 第54回日本老年医学会学術集会, 2012.6.28, 東京
- 6) 野上茜, 齊藤祐子, 崎山快夫, 伊藤慎治, 舟辺さやか, 初田裕幸, 高尾昌樹, 山崎峰雄, 村山繁雄, 進行性非流暢性失語を呈した進行性核上性麻痺(PSP)の2剖検例. Autopsy-proven progressive supranuclear palsy presenting progressive confluent aphasia-A clinicopathological evaluation of two PSP-NFLA cases-. 第53回日本神経病理学会総会学術研究会, 2012. 6. 28 ~ 30, 新潟市
- 7) 崎山快夫, 渡邊萌理, 大塚美恵子, 平原大志, 百

村伸一: Emery-Dreifuss型筋ジストロフィーの診断を契機に植え込み型徐細動器挿入となった1例. 第202回日本神経学会関東・甲信越地方会, 2012. 9. 1, 東京

【研究会】

- 1) 大塚美恵子: 脳脊髄液減少症患者における頭部MRI硬膜造影所見の実態. 第10回脳脊髄液減少症研究会 2012 3. 31-4. 1. 神戸
- 2) 藤本由貴, 崎山快夫, 大塚美恵子, 石川眞実, 小嶋第浩, 植木彰: 口蓋と横隔膜にミオクロームスが出現した硬膜動静脈ろうの1例. 44回日本運動障害研究会 2012. 7. 21. 東京

【その他】

- 1) 崎山快夫: 認知症診療の実際 さいたま総合臨床セミナー, 2012 3. 26. さいたま市
- 2) 大塚美恵子: 当センターにおけるトレリーフの使用経験トレリーフ発売3周年記念講演会 2012 7. 3. さいたま市
- 3) 大塚美恵子: 当センターにおけるリバスチグミンパッチの使用経験 リバスチグミンパッチ発売1周年記念講演会 2012 8. 31. さいたま市



総合医学2

■ 外科

☆原著論文

- 1) Abe I, Kawamura JY, Sasaki J, Konishi F : Acute fulminant pseudomembranous colitis which developed after ileostomy closure and required emergent total colectomy : a case report. Journal of Medical Case Reports 6 : 130 2012

☆学会発表

- 1) 吉沢あゆは, 清崎浩一, 齊藤正昭, 千葉文博, 高田理, 力山敏樹 : 全身麻酔下上部消化管内視鏡検査が診断に有用であった特発性食道破裂の一例. 日本胸部外科学会第159回関東甲信越地方会 2012. 6. 2 さいたま
- 2) 小櫃保, 千葉文博, 齊藤正昭, 高田理, 清崎浩一, 小西文雄 : リンパ節転移範囲から判断する食道胃接合部癌に対する妥当な術式・廓清範囲の検討. 第66回日本食道学会学術集会 2012. 6. 21-22 軽井沢
- 3) 田巻佐和子, 高田理, 齊藤正昭, 千葉文博, 小林恵子, 柿澤奈緒, 清崎浩一, 小西文雄 : 感染性大動脈瘤による食道穿孔後の消化管再建術. 第66回日本食道学会学術集会 2012. 6. 21-22 軽井沢 優秀演題賞受賞
- 4) 清崎浩一, 齊藤正昭, 千葉文博, 高田理, 小西文雄 : 食道癌術後の早期経腸栄養. 第66回日本食道学会学術集会 2012. 6. 21-22 軽井沢
- 5) 高田理, 清崎浩一, 齊藤正昭, 千葉文博, 小西文雄 : 当科における高齢者食道癌の現状と問題点. 第66回日本食道学会学術集会 2012. 6. 21-22 軽井沢
- 6) 柿澤奈緒, 野田弘志, 渡部文昭, 加藤高晴, 市田晃佑, 遠山信幸, 小西文雄 : 臍頭十二指腸切除後臍液瘻の危険因子としての腹腔動脈壁硬化の意義. 第43回日本膵臓学会大会 2012. 6. 28-29 山形
- 7) 渡部文昭, 野田弘志, 遠山信幸, 小西文雄 : 肥満は臍頭十二指腸切除後のSurgical site infectionのリスクファクターになりえるか. 第43回日本膵臓学会大会 2012. 6. 28-29 山形
- 8) 加藤高晴, 野田弘志, 神山英範, 渡部文昭, 柿澤奈緒, 遠山信幸, 福西昌徳, 宮谷博幸, 吉田行雄, 小西文雄 : 当院におけるIPMN46例の切除適応についての検討. 第43回日本膵臓学会大会 2012. 6.

28-29 山形

- 9) 市田晃佑, 野田弘志, 渡部文昭, 加藤高晴, 柿澤奈緒, 遠山信幸, 小西文雄 : S-1を24コース施行し, 著明な効果を認めた再発膵癌の1例. 第43回日本膵臓学会大会 2012. 6. 28-29 山形
- 10) 野田弘志, 神山英範, 渡部文昭, 加藤高晴, 柿澤奈緒, 市田晃佑, 遠山信幸, 小西文雄 : 臍頭十二指腸切除周術期治療成績に与えるSurgeon Volumeの影響. 第43回日本膵臓学会大会 2012. 6. 28-29 山形
- 11) 早田邦康, 加納良彦, 辻仲眞康, 千葉文博 : ポリアミンと癌発生および進展. 第21回日本癌病態治療研究会 2012. 7. 6-7 前橋
- 12) 千葉文博, 早田邦康, 小西文雄, 力山敏樹 : 宿主側からみた癌悪液質の変化. 第21回日本癌病態治療研究会. 2012. 7. 6-7 前橋
- 13) 小櫃保, 清崎浩一, 齊藤正昭, 千葉文博, 高田理, 小西文雄 : 心疾患を有する胃癌手術に対する安全性と検討. 第67回日本消化器外科学会 2012. 7. 18-20 富山
- 14) 高田理, 清崎浩一, 千葉文博, 齊藤正昭, 小西文雄 : 当院におけるPseudomyxoma eritonei (腹膜偽粘液腫 : PMP) の現状. 第67回日本消化器外科学会 2012. 7. 18-20 富山
- 15) 渡部文昭, 野田弘志, 遠山信幸, 小西文雄 : 再発肝細胞癌に対する治療戦略と手術の位置づけ. 第67回日本消化器外科学会 2012. 7. 18-20 富山
- 16) 千葉文博, 清崎浩一, 齊藤正昭, 高田理, 吉田卓義, 小西文雄 : U領域早期胃癌に対する機能温存の中長期的評価. 第67回日本消化器外科学会 2012. 7. 18-20 富山
- 17) 小林恵子, 野田弘志, 渡部文昭, 加藤高晴, 柿澤奈緒, 遠山信幸, 小西文雄 : 当院におけるunctioning PNETの治療経験. 第67回日本消化器外科学会 2012. 7. 18-20 富山
- 18) 長谷川英美, 清崎浩一, 高田理, 小西文雄 : 早期胃癌における脈管浸襲とリンパ節の関係についての検討. 第67回日本消化器外科学会 2012. 7. 18-20 富山
- 19) 辻仲眞康, 小西文雄, 河村裕, 佐々木純一, 前田孝文 : 大腸SM癌に対する内視鏡的治療後の追加腸管切除の適応例に関する再検. 第67回日本消化器外科学会 2012. 7. 18-20 富山
- 20) 阿部郁, 河村裕, 辻仲眞康, 長谷川英美, 佐々木純一, 前田孝文, 小西文雄 : 狭窄を伴う大腸癌に対する腹腔鏡補助下手術例の検討. 第67回日本消化器外科学会 2012. 7. 18-20 富山
- 21) 齊藤正昭, 鈴木浩一, 加藤高晴, 前田孝文, 清崎

浩一, 小西文雄: 胃前癌病変におけるセントロメア領域Setellite *a* の脱メチル化異常と染色体不安定との関連. 第67回日本消化器外科学会 2012. 7. 18-20 富山

- 22) 清崎浩一, 齊藤正昭, 千葉文博, 高田 理, 小西文雄: 食道癌に対するステントの効果. 第67回日本消化器外科学会 2012. 7. 18-20 富山
- 23) 福井太郎, 清崎浩一, 千葉文博, 周東千緒, 齊藤正昭, 高田 理, 吉田卓義, 小西文雄: 食道胃接合部癌Siewert分類Ⅱ型に対する至適術式の検討. 第67回日本消化器外科学会 2012. 7. 18-20 富山
- 24) 市田晃佑, 野田弘志, 神山英範, 加藤高晴, 渡部文昭, 遠山信幸, 小西文雄: 肝細胞癌術後多発肺転移に対する切除の経験. 第48回日本肝臓研究会 2012. 7. 20-21 金澤
- 25) 谷口 肇: 結節性甲状腺機能亢進症の一例. 第15回外科臨床問題検討会 2012. 7. 28 さいたま
- 26) 早田邦康, 加納良彦, 辻仲眞康, 千葉文博: ポリアミンによる癌進展促進と発癌抑制? 第8回免疫アジュバント研究会 2012. 8. 10 東京
- 27) 遠山信幸: Methodology for Consensus Building-The Perspective of Patient Safety. WHO後援国際シンポジウム 2012. 9. 12 東京
- 28) 石岡大輔, 辻仲眞康, 河村 裕, 佐々木純一, 力山敏樹: 感染性心内膜炎契機に直腸S状部癌が発見された1例. 第826回外科集談会 2012. 9. 1 茨城

☆その他

- 1) 力山敏樹: 原発性肝癌と転移性肝癌の相違と治療. 中外製薬 社内勉強会 2012. 6. 7 さいたま講師
- 2) 力山敏樹: エナジーデバイスを用いた膈頭十二指腸切除術. 第43回日本膵臓学会大会 2012. 6. 28-29 山形 ランチョンセミナー
- 3) 力山敏樹: エルプラット 腫瘍フィオーラム in Sendai 総合討論, 討論者 2012. 6. 29 仙台 総合討論
- 4) 遠山信幸: 第15回外科臨床問題検討会 2012. 7. 28 さいたま コメンテーター
- 5) 遠山信幸: 病院の実力 医療安全「事故を検証再発防ぐ」. 埼玉新聞 埼玉版 2012. 7. 1 記事掲載

☆著書・総説

- 1) 遠山信幸: 医療安全に向けた取り組み: 自治医科大学附属さいたま医療センター. 患者安全推進ジャーナル 医療機能評価機構機関誌 29: 19-

23: 2012

■呼吸器外科

(論文)

- 1) Nakano T, Endo S, Endo T, Tubochi H, Tetsuka K. Thoracoscopic findings of an asymptomatic solitary costal exostosis: is surgical intervention required?. *Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery* (in Press)

(学会発表)

- 1) 田巻佐和子ほか: 胸腔鏡手術で診断・切除しえた右肺門部リンパ節癌の1例 第164回日本肺癌学会関東支部会 7月7日(東京)
- 2) 玉那覇雄介ほか: 経過中に自然退縮し完全胸腔鏡下摘出し得た炎症性奇形種の一例 第141回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会 7月14日(東京)
- 3) 中野智之ほか: 菌球を疑われた末梢気管支内発生の気管支内過誤腫の一例 第142回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会 9月8日(東京)

(講演)

- 1) 遠藤俊輔: 特別講演 胸腔鏡手術におけるリスクマネジメント. 第27回近畿胸腔鏡研究会 8月25日(大阪)
- 2) 坪地宏嘉: 講師 第31回日本呼吸器外科学会関東・東京地区胸腔鏡手術講習会 9月15日(東京)

■心臓血管外科

☆原著論文

- 1) Shiraishi M, Aizawa K, Ohki S, Misawa Y: Thrombus arising from the ascending aorta. *Asian Cardiovasc Thorac Ann.* 20: 351, 2012
- 2) Shiraishi M, Kimura C, Takeuchi T, Kanoh M, Muramatsu K, Yamaguchi A, Adachi H: Pannus-related mechanical valve dysfunction leading to hemodynamic shock. *Arch of Clin Exp Surg.* 1: 50-53, 2012
- 3) Shiraishi M, Takahashi M, Yamaguchi A, Adachi H: Hepatic artery pseudoaneurysm with extrahepatic biliary obstruction. *Ann Vasc Dis.* 5: 100-103, 2012
- 4) Shiraishi M, Yamaguchi A, Adachi H: Apico-aortic conduit for aortic stenosis in a patient with chronic thoracic wall infection. *Ann Thorac*

- Cardiovasc Surg. 18 : 379-381, 2011
- 5) Hori D, Noguchi K, Yamaguchi A, Adachi H : Successful percutaneous coronary intervention in a case of acute aortic dissection complicated with malperfusion of the left main coronary artery after replacement of the ascending aorta. Gen Thorac Cardiovasc Surg (2012) 60 : 381-385
 - 6) Hori D, Yuri K, Nemoto K, Yamaguchi A, Adachi H : Early aortic endograft failure in the presence of periaortic lymphadenopathy with neurofibromatosis (von Recklinghausen's disease). General Thoracic and Cardiovascular Surgery Vol.60 No.5, pp. 308-311, May, 2012
 - 7) Noguchi K, Hori D, Nomura Y, Tanaka H : Latrogenic Acute Aortic Dissection during Percutaneous Coronary Intervention for Acute Myocardial Infarction. Annals of Vascular Diseases Vol.5, No.1 : 2012 ; pp78-81
 - 8) Noguchi K, Yamaguchi A, Naito K, Yuri K, Adachi H : Short-term and long-term outcomes of postinfarction ventricular septal perforation. General Thoracic and Cardiovascular Surgery. Vol.60 No.5, pp. 261-267, May, 2012
 - 9) Noguchi K, Hori D, Nomura Y, Tanaka H : Double aortic arch in an adult. Interactive CardioVascular and Thoracic Surgery. 14 (2012) : 900-902
 - 10) Hori D, Noguchi K, Nomura Y, Lefor A, Tanaka H : Cardiac Protection With Systemic Hyperkalemia in Reoperations With Patent Grafts. Ann Thorac Surg 2012 ; 94 (2), 641-3
 - 11) Hori D, Noguchi K, Nomura Y, Tanaka H : Perivalvular pseudoaneurysm caused by streptococcus dysgalactiae in the presence of prosthetic aortic valve endocarditis. Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2012 ; 18 (3) : 262-5
 - 12) Hori D, Yuri K, Nemoto K, Yamaguchi A, Adachi H : Successful treatment of an abdominal aortic aneurysm by endovascular graft placement through a previously placed prosthetic graft : Report of a case. Surg Today. 2010 Dec ; 40 (12) : 1169-72
 - 13) Hori D, Tanaka M, Yamaguchi A, Adachi H : Type A aortic dissection, Right-sided aortic arch, and thoracic aortic aneurysm. Asian Cardiovasc Thorac Ann. 2009 Dec ; 17 (6) : 640-2
 - 14) Hori D, Endo S, Tsubochi H, Nokubi M, Sohara Y : Spontaneous regression of symptomatic thymoma caused by infarction. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2008 Sep ; 56 (9) : 468-71
 - 15) Hori D, Endo S, Tsubochi H, Miwa C, Watanabe Y, Koyama S, Matsuura K, Nokubi M, Sohara Y : Hemoptysis in year after video-assisted thoracoscopic bullectomy for spontaneous Pneumothorax : report of a case. Kyobu Geka. 2008 Apr ; 61 (4) : 340-3. Japanese
- ☆学会発表
- 1) 堀 大治郎, 野口権一郎, 野村陽平, 田中弘之 : 冠動脈バイパス術後開心術の心筋保護として低体温, 高K血症が有効であった1例. 第159回日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集. P15. 第159回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 2012. 6.2 パレスホテル大宮
 - 2) 荒川 衛, 西村 隆, 武輪能明, 梅木昭秀, 安藤政彦, 安達秀雄, 巽 英介 : 植込型定常流型LVADによる自己心拍同時制御システムの慢性期不全心に及ぼす影響. 第159回日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集. P15. 第159回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 2012. 6.2 パレスホテル大宮
 - 3) 吉崎隆道, 由利康一, 白杉岳洋, 田村 敦, 高橋雅弥, 小日向聡行, 木村直行, 森田英幹, 安達晃一, 山口敦司, 安達秀雄 : TEVAR術後Type2endoleakによる瘤拡大に対し直視下に瘤切開・肋間動脈閉鎖を行った1例. 第159回日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集. P16. 第159回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 2012. 6.2 パレスホテル大宮
 - 4) 片山郁雄, 田中正史, 伊藤 智, 嶋田直洋, 橋本和憲, 荻野秀光 : SMA直下の動脈閉塞を伴うCrawford 2 型胸腹部大動脈瘤に対しDebranching TEVARを施行した1例. 第159回日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集. P21. 第159回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 2012. 6.2 パレスホテル大宮
 - 5) 竹内太郎, 木村知恵里, 白石 学, 由利康一, 山口敦司, 安達秀雄 : 大動脈二尖弁, 心室中隔欠損症, バルサルバ洞動脈瘤に感染性心内膜炎を合併した1手術例. 第159回日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集. P24. 第159回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 2012. 6.2 パレスホテル大宮
 - 6) 橋本和憲, 田中正史, 板垣 翔, 嶋田直洋, 伊藤智, 片山郁雄 : DCM, 左室内血栓に対する血栓

- 除去術後体液管理にトルバプタンが有効であった1例. 第159回日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集. P25. 第159回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 2012. 6. 2 パレスホテル大宮
- 7) 高野道俊, 森田英幹, 安達晃一, 由利康一, 木村直行, 長野博司, 小日向聡行, 田村 敦, 山口敦司, 安達秀雄: clover techniqueを用いて三尖弁形成術を施行した1例. 第159回日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集. P27. 第159回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 2012. 6. 2 パレスホテル大宮
- 8) 田島 泰, 内藤和寛, 由利康一, 安達晃一, 野中崇央, 山口敦司, 安達秀雄: 当院におけるminimally invasive surgery (MICS) AVRの経験. 第159回日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集. P28. 第159回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 2012. 6. 2 パレスホテル大宮
- 9) 佐藤哲也, 中野光規, 田村 敦, 安達晃一: AVR後, 発症したNOMIに対してパパペリン動注+試験開腸で救命した1例. 第2回さいたま-神奈川症例検討会 2012. 6. 16 横浜
- 10) 白石 学, 白杉岳洋, 竹内太郎, 森田英幹: アブレーション後の左房食道瘻の1例. 第2回さいたま-神奈川症例検討会 2012. 6. 16 横浜
- 11) 橋本和憲, 田中正史, 片山郁雄, 伊藤 智, 嶋田直洋, 荻野秀光: SMA直下の動脈閉塞を伴うCrawford 2 型胸腹部大動脈瘤に対しDebranching TEVARを施行した1例. 第2回さいたま-神奈川症例検討会 2012. 6. 16 横浜
- 12) 牛木真理子, 内藤和寛, 田島 泰, 野中崇央, 中田弘子: 活動性感染性心内膜炎に対し, PrimaPlusを用いてBentall手術を行った1例. 第2回さいたま-神奈川症例検討会 2012. 6. 16 横浜
- 13) 野口権一郎, 長野博司, 小林祐介: 術中下大静脈損傷. 第2回さいたま-神奈川症例検討会 2012. 6. 16 横浜
- 14) 山口敦司, 安達晃一, 由利康一, 森田英幹, 木村直行, 長野博司, 小日向聡行, 高橋雅弥, 田村敦, 佐藤健一郎, 牛木真理子, 白杉岳洋, 竹内紘子, 吉崎隆道, 安達秀雄: 虚血性僧帽弁閉鎖不全症におけるtetheringを軽減させるための手技. 第17回日本冠動脈外科学会学術大会雑誌 p83. 第17回日本冠動脈外科学会学術大会 2012. 7. 12-13 市ヶ谷
- 15) 野中崇央, 木村直行, 中野光規, 吉崎隆道, 佐藤哲也, 西 智史, 堀 大治郎, 田村 敦, 木村知恵里, 松本春信, 由利康一, 安達晃一, 山口敦司, 安達秀雄: 弁膜症術後に悪性高熱症を発症した1例. 第3回東海-さいたま心臓血管外科サマーセミナープログラム・講演要旨 p10 第3回東海-さいたま心臓血管外科サマーセミナー 2012. 7. 21 箱根
- 16) 吉崎隆道, 由利康一, 中野光規, 白杉岳洋, 西智史, 佐藤哲也, 野中崇央, 堀 大治郎, 田村敦, 高橋雅弥, 小日向聡行, 木村直行, 木村知恵里, 森田英幹, 松本春信, 安達晃一, 山口敦司, 安達秀雄: TEVAR術後 Type2 endoleakによる瘤拡大に対し直視下に瘤切開・肋間動脈閉鎖を行った1例. 第3回東海-さいたま心臓血管外科サマーセミナープログラム・講演要旨 p12 第3回東海-さいたま心臓血管外科サマーセミナー 2012. 7. 21 箱根
- 17) 小林祐介, 野口権一郎, 長野博司, 田中弘之: 破裂をきたした慢性期左室瘤. 第3回東海-さいたま心臓血管外科サマーセミナープログラム・講演要旨 p12-13 第3回東海-さいたま心臓血管外科サマーセミナー 2012. 7. 21 箱根
- 18) 白杉岳洋, 白石 学, 森田英幹: 若年発症の僧帽弁閉鎖不全症に対する弁置換術後3年目に大動脈弁狭窄症, II度房室ブロックを来した1例. 第3回東海-さいたま心臓血管外科サマーセミナープログラム・講演要旨 p15 第3回東海-さいたま心臓血管外科サマーセミナー 2012. 7. 21 箱根
- 19) 田島 泰, 内藤和寛, 牛木真理子, 野中崇央, 中田弘子: 慢性心房細動を伴う僧帽弁狭窄症に対して, Upper ministernotomyにより僧帽弁置換術および三尖弁弁輪縫縮術を施行した2症例の検討. 第3回東海-さいたま心臓血管外科サマーセミナープログラム・講演要旨 p16 第3回東海-さいたま心臓血管外科サマーセミナー 2012. 7. 21 箱根
- 20) 西 智史, 中野光規, 竹内太郎, 吉崎隆道, 佐藤哲也, 野中崇央, 武部 学, 堀 大治郎, 佐藤健一郎, 田村 敦, 木村知恵里, 木村直行, 松本春信, 由利康一, 安達晃一, 山口敦司, 安達秀雄: 深部静脈血栓症および前脛骨動脈仮性瘤を合併した血管ペーチェット病の1例. 第12号血管外科アカデミー 2012. 8. 25-26, 函館
- 21) 由利康一, 佐藤健一郎, 西 智史, 安達晃一, 田村 敦, 山口敦司, 安達秀雄: TEVAR時に左総頸動脈閉塞をきたした1例. 第12号血管外科アカデミー 2012. 8. 25-26, 函館
- 22) Yori K, Hori D, Yokoi Y, Adachi K, Matsumoto H, Yamagaguchi A, Adachi H. :

The advantage of Fenestrated Stent Graft for type B Aortic Dissections. 7th Meeting of the German-Japanese Society for Vascular Surgery Abstract p66 第7回日独血管外科研究会 2012. 9. 6-8 淡路島

- 23) Matsumoto H, Nishi S, Hori D, Tamura A, Kimura C, Kimura N, Yuri K, Adachi K, Yamaguchi A, Adachi H. : Surgical Management of Middle Aortic Syndrome in the Elderly. 7th Meeting of the German-Japanese Society for Vascular Surgery Abstract p71 第7回日独血管外科研究会 2012. 9. 6-8 淡路島

☆その他

- 1) 安達秀雄 会長：第159回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 2012. 6. 2 パレスホテル大宮
- 2) 安達秀雄 講演：外科治療の立場から. [大動脈瘤に体する治療戦略] ~外科治療VSカテーテル治療~. 第20回鎌倉循環器フォーラム 2012. 6. 26 横浜
- 3) 安達秀雄 ライブコメンテーター：ライブデモンストレーション2 大動脈瘤に対するステントグラフト術 I 症例6-8. 第7回Japan Endovascular Symposium 2012. 8. 30-31 東京慈恵会医科大学 講堂

■ 整形外科

学会・研究会発表

- 1) 遠藤実, 税田和夫, 秋山達, 堀井倫子, 上田祐輔：化膿性脊椎炎の治療成績~骨破壊についての検討~, 第25回埼玉脊椎・脊髄病研究会, 2012. 3. 10, さいたま市
- 2) 秋山達, Jonathan Clark, Peter Choong, 税田和夫：腸腰筋は骨盤部悪性腫瘍切除における機能的予後決定因子ではない：Type1, 1/4片側骨盤切除術13例と腸腰筋内悪性腫瘍2例の検討, 第85回日本整形外科学会学術総会, 2012. 5. 17-20, 京都
- 3) 秋山達：若手研究者の海外留学を成功させるために 留学における成功の考察 オーストラリア St.Vincent's Hospital, Melbourneに留学した経験から. 第45回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2012. 7. 14-15, 東京, 日本整形外科学会雑誌(0021-5325) 86巻6号 PageS906 (2012. 06)
- 4) 河野博隆(東京大学 大学院整形), 篠田裕介, 小倉浩一, 秋山達, 大隈知威, 平田真, 今西淳悟,

小林寛, 五嶋孝博, 津田祐輔, 池上政周：デスマイド腫瘍に対するトラニラストの有効性に関する探索的臨床試験(会議録), 第45回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2012. 7. 14-15, 東京, 日本整形外科学会雑誌(0021-5325) 86巻6号 PageS896 (2012. 06)

- 5) Akiyama, T. Clark, J. Choong, PF. Saita, K : Pelvic ring reconstruction with the non-vascularized fibular free graft following internal hemipelvectomy of our 11 cases, The 22nd Japanese - Korean Combined Orthopaedic Symposium (JKCOS 2012), June 7-9, Nikko, Tochigi

著書・総説

- 1) 税田和夫：胸椎・胸郭. NEWエッセンシャル整形外科学 星野雄一, 吉川秀樹, 齋藤知行編 医歯薬出版, 458-466, 2012
- 2) 星地重都司, 税田和夫, 杉本直哉, 星野雄一：運動器の評価 脊椎圧迫骨折. ロコモティブシンドローム 中村耕三編 メディカルレビュー社, 177-182, 2012
- 3) 秋山達：X線診断Q&A 骨悪性線維性組織球腫(骨MFH)(図説)雑誌整形外科(0030-5901) 63巻3号 Page259-260 (2012. 03)

その他

- 1) 税田和夫：日本整形外科学会教育研修講演：トラムセットの使用経験. 第2回さきたま慢性疼痛研究会, 2012. 07. 21, 熊谷
- 2) 秋山達：講演：血管吻合なしの腓骨移植で骨盤輪を再建できるのか? ~骨盤腫瘍手術の経験から~. 第4回東日本骨軟部外傷研究会, 2012. 2. 11, 東京

■ 耳鼻咽喉科

<原著論文>

- 1) Yoshida, N., Kanazawa, H., Shinnabe, A., Iino, Y. Powered endoscopic dacryocystorhinostomy with radiowave instruments : surgical outcome according to obstruction level. Eur Arch Otorhinolaryngol. 2012 Jun 14. [Epub ahead of print]
- 2) Shinnabe, A., Hara, M., Hasegawa, M., Matsuzawa, S., Kanazawa, H., Kanazawa, T., Yoshida, N., Iino, Y. : Differences in middle ear ventilation disorders between pars flaccida and

pars yensa cholesteatoma in sonotubometry and patterns of tympanic and mastoid pneumatization. *Otol Neurotol*, 33 (5) : 765-8, 2012.

- 3) Kanazawa, T., Watanabe, Y., Hara, M., Shinnabe, A., Kusaka, G., Murayama, T., Iino, Y. : Arytenoid adduction combined with medialization laryngoplasty under general anesthesia using a laryngeal mask airway. *American Journal of OTOLARYNGOLOGY-Head and Neck Medicine and Surgery* 33, 303-307, 2012.
- 4) 長谷川雅世, 菊池 恒, 飯野ゆき子, 市村恵一 : 下咽頭梨状陥凹瘻の4例. *耳鼻臨床*105 : 8 : 767-72, 2012.

<学会発表>

- 1) Iino, Y., Kanazawa, H., Yoshida, N. : Anti-IgE Therapy for Eosinophilic Otitis Media. The First Asian Otology Meeting & The 3rd East Asian Symposium on Otology, Nagasaki, June 2-3, 2012. pp44.
- 2) Kanazawa, H., Shinnabe, A., Yoshida, N., Iino, Y. : Clinical Characteristics of the Secondary Cholesteatoma of the Middle Ear. The First Asian Otology Meeting & The 3rd East Asian Symposium on Otology, Nagasaki, June 2-3, 2012. pp62.
- 3) Iino, Y. : Eosinophilic Otitis Media. The 9th international Conference on Cholesteatoma and Ear Surgery, Panel Discussion 11, Moderator, Nagasaki, June 3-7, 2012. pp44.
- 4) Yoshida, N. : Patulous Eustachian Tube Develops the Eosinophilic Otitis Media Followed by Chronic Rhinosinusitis. The 9th international Conference on Cholesteatoma and Ear Surgery, Panel Discussion11, Panellets, Nagasaki, June 3-7, 2012. pp163.
- 5) Shinnabe, A., Hara, M., Hasegawa, M., Matsuzawa, S., Kanazawa, H., Yoshida, N., Iino, Y. : Keratosis Obturans and Middle Ear Disease, The 9th international Conference on Cholesteatoma and Ear Surgery, Free paper, Nagasaki, June 3-7, 2012. pp239.
- 6) 原 真理子, 長谷川雅世, 松澤真吾, 新鍋晶浩, 金沢弘美, 吉田尚弘, 飯野ゆき子 : 当院における小児慢性中耳炎の術後成績. 第111回日耳鼻埼玉県地方部会学術講演会, さいたま市, 2012年6月

10日, プログラムp8.

- 7) 新鍋晶浩, 原 真理子, 長谷川雅世, 松澤真吾, 金沢弘美, 吉田尚弘, 飯野ゆき子 : 小児滲出性中耳炎における側頭骨CTでの含気化評価と治療予後. 第111回日耳鼻埼玉県地方部会学術講演会, さいたま市, 2012年6月10日, プログラムp8.
- 8) 飯野ゆき子 : 小児耳疾患に対する保存的治療と手術的治療. 第7回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会ランチョンセミナーⅡ, 岡山市, 2012年6月21日, *小児耳鼻咽喉科*2012 ; 33 (2) : 82.
- 9) 新鍋晶浩, 原 真理子, 長谷川雅世, 松澤真吾, 金沢弘美, 吉田尚弘, 飯野ゆき子 : 小児滲出性中耳炎における側頭骨CTでの含気化評価と治療予後. 第7回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会ランチョンセミナー2, 岡山市, 2012年6月21-22日, *小児耳鼻咽喉科*2012 ; 33 (2) : 143.
- 10) 原 真理子, 飯野ゆき子, 吉田尚弘, 金沢弘美, 新鍋晶浩, 長谷川雅世 : 当科における小児慢性中耳炎の術後成績. 第7回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会ランチョンセミナー2, 岡山市, 2012年6月21-22日, *小児耳鼻咽喉科*2012 ; 33 (2) : 141.
- 11) 松澤真吾, 笹村佳美, 市村恵一 : 発熱, 頸部腫脹を主訴に受診した移植後リンパ増殖症 (PTLD) の一例. 第7回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会ランチョンセミナー2, 岡山市, 2012年6月21-22日, *小児耳鼻咽喉科*2012 ; 33 (2) : 180.
- 12) 飯野ゆき子, 原 真理子, 長谷川雅世, 松澤真吾, 新鍋晶浩, 金沢弘美, 吉田尚弘 : ダウン症児に対する鼓室形成術. 第74回耳鼻咽喉科臨床学会総会および学術講演会, 東京, 2012年7月5-6日, プログラムp.20.
- 13) 金沢弘美, 長谷川雅世, 松澤真吾, 原 真理子, 吉田尚弘, 飯野ゆき子 : 好酸球性中耳炎へのステロイド投与後の耳管機能の変化. 第74回耳鼻咽喉科臨床学会 総会および学術講演会, 東京, 2012年7月5-6日, プログラムp.27.

<著書・総説>

- 1) 星野志織, 飯野ゆき子 : 耳鼻咽喉・口腔疾患—慢性口蓋扁桃炎(扁桃肥大) *日本医師会雑誌*第141巻・特別号(1) 小児・思春期診療 最新マニュアルp306-307, 2012年6月.
- 2) 星野志織, 飯野ゆき子 : 耳鼻咽喉・口腔疾患—中耳炎(耳漏) *日本医師会雑誌*第141巻・特別号(1) 小児・思春期診療 最新マニュアルp307-309, 2012年6月.
- 3) 星野志織, 飯野ゆき子 : 特集—子どもによく見ら

れる鼻疾患－鼻中隔彎曲症. 健康教室 第741集, p23, 2012年8月.

- 4) 星野志織, 飯野ゆき子: 耳漏の初期対応. 総合診療誌JIM, 22 (7) : 524, 2012年7月.
- 5) 飯野ゆき子: 第9章 外リンパ瘻－手術療法の適応をタイミング. 中山書店 ENT臨床フロンティア 急性難聴の鑑別とその対処 p136-140, 2012年8月.
- 6) 吉田尚弘: 第10章 内耳炎 - 内耳炎の原因は?. 中山書店 ENT臨床フロンティア 急性難聴の鑑別とその対処 p148-152, 2012年8月.
- 7) 吉田尚弘: 第10章 内耳炎 - プライマリケアでのポイント. ENT臨床フロンティア 急性難聴の鑑別とその対処 p153-158, 2012年8月.

<その他>

- 1) 飯野ゆき子: 「one air, one diseaseからみたアレルギー診療－耳鼻科領域の立場から－」第69回臨床アレルギー研究会【特別講演1】東京, 2012年6月23日.
- 2) 飯野ゆき子: 【特別講演】「難治性中耳炎の臨床」川口医師会耳鼻科部会学術講演会, 川口市, 2012年7月11日.
- 3) 飯野ゆき子: 編集後記. Otol Jpn22 (3) : 288, 2012.
- 4) 飯野ゆき子: 中耳炎の悪化について. 講談社 週刊現代「名医の相談室」連載132回. 2012年9月1日号.

■ 眼科

総説

- 1) 梯彰弘: 特集 糖尿病合併症の成因と薬物療法 I. 糖尿病合併症予防の薬物療法の現状と限界 1. 網膜症 月間糖尿病 2012 7月号vol.4 No.8 : 12-16, 2012.

著書

- 1) 梯彰弘, 神原千浦: 見逃せない, よくある外臓疾患の診かた・みつけかた; 野村英樹, 伴信太郎編集: 第1章 眼をみる 全身病・他疾患診断に眼を見る: 55-68, 中山書店, 東京, 2012
- 2) Kakehashi A., Ota A., Toyoda F., Kinoshita N., Yamagami H., Obata H., Matsumoto T., Tsuji J., Dobashi Y., Fujimoto W.Y. and Kawakami M. DIABETIC RETINOPATHY Mohammad Shamsul Ola ed. Chapter 15. Prophylactic Medical Treatment of Diabetic Retinopathy.

pp291-304, INTECH, Rijeka, Croatia, 2012

講演会

- 1) 豊田文彦: 自治医大さいたま医療センターにおけるAMDの治療成績 第9回自治医科大学附属さいたま医療センター 眼科クリニカル・カンファレンス 2012年7月21日

その他

- 1) 太田有夕美: CT検査が有用であった眼球破裂の一例 第25回埼玉県眼科手術談話会, さいたま市, 2012年7月8日

■ 産婦人科

論文発表

- 1) Hayashi, Y., Shimizu, Y., Netsu, S., Hanley, S., Konno, R. High HPV vaccination uptake rates for adolescent girls after regional governmental funding in Shiki City, Japan. Vaccine 30 (37) : 5547-5550, 2012.

学会発表

- 1) Konno, R. 48-month efficacy of the HPV-16/18 AS04-ajuvanted vaccine in young Japanese women. European Research Organization on Genital Infection and Neoplasia 2012, Prague, July 8-11, 2012.
- 2) Konno, R, Imamura, S., Utagawa, Y., Konishi, I., Suzuki, M., Nonoyama, S., Yoshikawa, H., Noda, K. Recent activities - cervical cancer prevention in Japan. 2012 Conference of Asia Oceania Research Organisation on Genital Infections and Neoplasia (AOGIN 2012), Hong Kong, July 13-15, 2012.
- 3) 坂田麻理子, 小林浩一. 【パネルディスカッション】消化器領域を腹部領域とすることを議論する(産婦人科領域). 第85回日本超音波医学会学術集会, 東京, 2012年5月25日.
- 4) 根津幸穂, 坂田麻理子, 芝田 恵, 林 由梨, 今野 良. 胎児羊水過多を契機に診断された筋強直性ジストロフィー合併妊娠. 第48回日本周産期新生児学会学術集会, さいたま, 2012年7月8日～10日.
- 5) 坂田麻理子, 芝田 恵, 林 由梨, 根津幸穂, 今野 良, 牧野康男, 三谷 譲, 松田義雄. 病一病連携により周産期管理した, 腎移植後妊娠例. 第48回日本周産期新生児学会学術集会, さいたま,

2012年7月8日～10日.

- 6) 堀内 功, 芝田 恵, 林 由梨, 坂田麻理子, 根津幸穂, 満下淳地, 近澤研郎, 齋藤將也, 深津優子, 平嶋洋斗, 今野 良. 発症早期より胸部への転移が認められた侵入奇胎の一例. 第81回 埼玉産科婦人科学会 埼玉県産婦人科医会 平成24年度前期学術集会, さいたま, 2012年7月7日.

著書, 総説

- 1) 今野 良. ヒトパピローマウイルス (HPV) と子宮頸がん. *がん治療と感染症*, 5 : 8, 2012. 先端医学社
- 2) 今野 良. 子宮頸癌 / HPV感染. *小児内科*, 44 (8) : 1291-1295, 2012. 東京医学社

その他

- 1) 今野 良. あなたもできる確実な子宮頸がん予防ワクチンと検診—. *市民公開講座 がんはワクチンで予防できる時代へ*, 山形, 2012年6月9日.
- 2) 根津幸穂. 子宮内膜症と食生活. *子宮内膜症フォーラム*, さいたま, 2012年7月5日.
- 3) 坂田麻理子. 地域周産期センター開設2年の現状. 第19回さいたま新都心産婦人科懇話会, さいたま, 2012年7月12日.
- 4) 今野 良. 子宮頸がん予防ワクチンのホントの話—日本発のエビデンス世界へ—. *さいたま 子宮頸がん予防フォーラム*, さいたま, 2012年8月31日.

■ 歯科口腔外科

(1) 研修会講演

- 1) 小佐野仁志 : 口腔ケアの基本と実践. 第10回口腔ケア研修会, 栃木, 2012年9月12, 13, 14日
- 2) 小佐野仁志, 鈴木美佳 : 造血幹細胞移植の口腔ケア 第10回口腔ケア研修会, 栃木, 2012年9月12, 13, 14日

(2) 著書・総説

- 1) 小佐野仁志 : 造血幹細胞移植患者に対する口腔ケア. *造血幹細胞移植の基礎と臨床*, 神田善伸編, 医薬ジャーナル社, 大阪, 338-341, 2012.

■ 放射線科

1. 学会・研究会発表 (2012年4月～9月分) :

1) 国際学会

- 1) 松浦克彦 : Embolotherapy for pulmonary arteriovenous malformations in the patient of hereditary hemorrhagic telangiectasia complicated with hepatic arteriovenous malformations : The report of two cases, Poster presentation, Asia-Pacific Congress of Cardiovascular Interventional Radiology 2012 (41st JSIR & 11th ISIR), 2012年5月, 神戸
- 2) 大河内知久 : Endovascular stenting for malignant superior vena cava syndrome : clinical result in our institute, Oral presentation, Asia-Pacific Congress of Cardiovascular Interventional Radiology 2012 (41st JSIR & 11th ISIR), 2012年5月, 神戸
- 3) 濱本耕平 : Long-term outcomes of percutaneous transluminal stent placement of central venous obstruction in hemodialysis patients : A single center experience, Oral presentation, Asia-Pacific Congress of Cardiovascular Interventional Radiology 2012 (41st JSIR & 11th ISIR), 2012年5月, 神戸
- 4) 濱本耕平 : A case of successful embolotherapy for Type 2 hepatopulmonary syndrome, Poster presentation, Cardiovascular Interventional Radiological Society Europe 2012, 2012年9月, Lisbon, Portugal

2) 国内学会

- 1) 田中 修 : 脊椎の骨髄疾患, 第71回日本医学放射線学会総会, 講演, 2012年4月, 横浜
- 2) 濱本耕平 : 腹部大動脈人工血管置換術後に右下肢急性動脈閉塞で発症した二次性大動脈十二指腸瘻の1例 : CT所見を中心に, 第441回日本医学放射線学会関東地方会, ポスター発表, 2012年6月, 横浜
- 3) 大河内知久 : 胸膜外Solitary fibrous tumorの2例, 第26回日本腹部放射線研究会, 口演, 2012年6月, 大阪
- 4) 濱本耕平 : 胸部X線写真読影の基本～チームアプローチに必要な知識・考え方～, 第18回日本心臓リハビリテーション学会, 講演, 2012年7月, 大宮
- 5) 角田秀和 : 肝細胞癌の上腕三頭筋転移の一例, 第48回日本肝癌研究会, ポスター発表, 2012年7

月，金沢

- 6) 濱本耕平：透析患者における中心静脈狭窄に対する経皮的血管内ステント留置術の長期予後に関する検討，第3回埼玉アクセス研究会，口演，2012年7月，大宮
- 7) 小野澤裕昌：子宮体部原発扁平上皮癌の一例，第19回埼玉画像医学フォーラム，口演2012年9月，大宮
- 8) 小野澤裕昌：子宮体部原発扁平上皮癌の一例，第13回Japanese Society for the Advancement of Women's Imaging，ポスター発表，2012年9月，淡路島
- 9) 濱本耕平：胃原発GISTを合併した卵巣硬化性間質性腫瘍の一例：画像所見を中心に，第48回日本医学放射線学会秋季大会，ポスター発表，2012年9月，長崎

2. 原著論文(2012年4月～9月分)：

- 1) 大河内知久：進行肺癌に対し，上大静脈と肺動脈にステント留置を施行した1例，日本インターベンショナルラジオロジー学会雑誌，27巻2号，167 - 170，2012年5月
- 2) 大河内知久：小網発生のCastleman病の1例，臨床放射線，57巻5号，633 - 636，2012年5月

3. 総説(2012年4月～9月分)：

- 1) 田中 修：脊椎の骨髄疾患，画像診断，32巻7号，641 - 653，2012年7月



編集後記

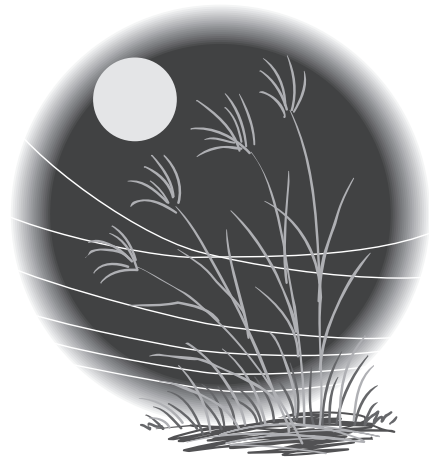
今回の発行にあたりましては、大変お忙しい中、力山先生をはじめ多くの先生方から投稿いただきまして、ご協力ありがとうございました。

燃え盛る夏の暑さとともに、ロンドンオリンピックで日本中が興奮と感動で沸きあがった夏もすっかり秋めいてまいりました。季節の変わり目なので、体調管理をしたいものです。

さて、先般新聞の健康コラムを見ていたら、病気の発症を防ぐ免疫機能の中に、ナチュラルキラー（NK）細胞があるそうです。この細胞の働きを良くすると、免疫力を高め、風邪をひきにくく、発がん率も低いそうです。NK細胞は「多糖体」と呼ばれる栄養成分によって活性化し、よりよく働くようになるそうです。多糖体を多く含む食品には、ヨーグルト、バナナ、さつまいも、ジャム、ネバネバした食べ物（納豆、ナメコ、オクラ、めかぶ）、他コーヒー生豆などがあるそうです。

規則的な睡眠やバランスの良い食事など生活習慣に気をつけ、免疫力を高めてスポーツ、食欲、読書、芸術のいろいろな秋を楽しんではいかがでしょう。

(N)



自治医科大学附属さいたま医療センター
研究だより 第33号

発行日 平成24年10月17日
発行 自治医科大学附属さいたま医療センター
発行責任者 センター長 百村 伸一
編集 事務局 総務課
BSL 宿舎・研修施設事務室
〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町1-847
TEL. 048-647-2111
FAX. 048-648-5166
題字 川上 正舒 前センター長

印刷 第一印刷(株)